

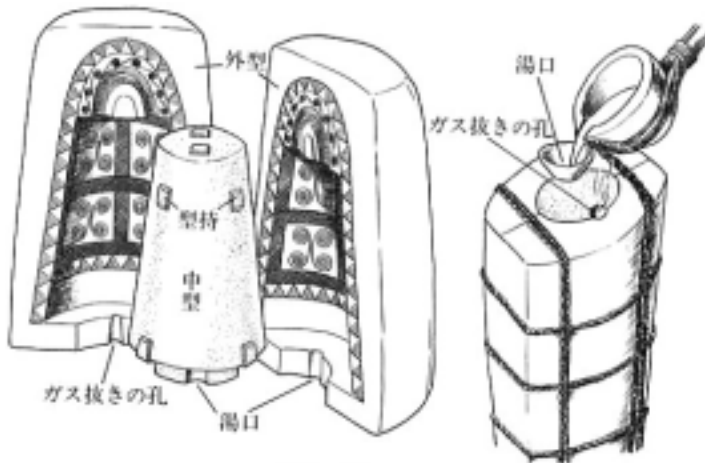


『 銅鐸（どうたく）を作る 』

古代の祭祀に使われたものと思われる銅鐸が多く出土しています。この写真は弓矢・鶴亀・杵突き・とんぼ、亀の描かれた有名な桜ヶ丘遺跡の5号銅鐸（国宝）です。こんな精緻な模様を刻んだ銅鐸はどのようにして作られたのでしょうか。

姫路市の名古山、住居跡から銅鐸の、石の鋳型の一部が1960年（昭和35年）に出土しました。この鋳型で作ると高さが25センチメートルほどの銅鐸ができるそうです。これは日本で最初に発見された石の鋳型で、たいへん貴重な遺物です。ところが、1980年（昭和55年）4月、今宿から、道路工事中に、多数の弥生式土器の破片とともに、また石の鋳型の一部が発見されました。これは名古山の鋳型と同じ年代で、弥生時代中期の後（紀元1～2世紀）のものであらうとされています。

ここでは、古代の鋳造技術の一つ、石型の製造法を図示します。



桜ヶ岡遺跡
5号銅鐸

石型の工程

二つの石に鋳造する器物を半分ずつ刻み、これをあわせたすさまに熔融した金属、ここでは青銅を流しこんで製作するものである。その工程はつぎようになる。

- 鋳型の製作 鋳造する器物の半面ずつを二つの石に刻む。銅鐸などのばあいは規矩を使用したとみられる。
- 鋳造 あらかじめ鋳型を加熱しておいたのち、鋳型をあわせて固定し、熔融した青銅を鋳型のなかに流しこむ。熔炉から熔融した青銅をとりだすためには、粘土製の柑禍（るつぼ）（取瓶＝とりべ）が使用される。
- 成形・研磨 鋳型から製品をとりだし、合せ目からはみだした部分などをとりぞき磨く。鋳流れが十分ではなく間隙を生じたばあいなどには、鋳掛けや銅板などをはめこむ。

むらの鍛冶屋[®]



何でもお気軽にお尋ねください！！

参考資料

技術の考古学 潮見 浩 有斐閣選書 1988年3月
倭国 - 邪馬台国と大和王権 - 京都国立博物館 1993年
郷土史 ひめじ 姫路市教育委員会

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/>
ryou@memenet.or.jp